

広
報
天使びょういん
T E N S H I - H O S P I T A L



撮影：織田小百合



- p2-3 鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンター
- p4 Inside hospital「救急科」
- p5 臨床研修室
- p6 エッセイ「わたしの〇〇」(第22回)
- p7 レシピ
- p8 お知らせ



鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンター

外科・小児外科科長
鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンター
センター長 湊 雅嗣



センター設立の目的と概要

2014年9月1日、天使病院では「鼠径(そけい)ヘルニア・臍(さい)ヘルニアセンター」を開設しました。これまで小児のヘルニア治療を数多く手がけてきましたが、センターの設立により、小児から成人・高齢者まで、年齢を問わず幅広い患者さんを受け入れる体制が整いました。総合病院の強みを活かして、小児科、産婦人科、内科(呼吸器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、消化器内科、腎臓内科)と連携して、基礎疾患のある方でも安心して治療を受けられる環境をつくっています。



対象疾患と治療の特徴

当センターでは、小児・成人ともに腹腔鏡を用いた低侵襲手術を基本としています。小児では、男女ともにLPEC(腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法)を採用しており、当院では延べ2000件のLPEC手術を行ってきました。これはメッシュを用いない根治術として非常に優れた方法です。当院ではこのLPEC法を、成人のヘルニア門の小さい外鼠径ヘルニア(L-1型)にも応用しており、再発リスクの上昇無く低侵襲で人工物留置のない手術が可能です。その他の成人鼠径ヘルニアに対しては、腹腔鏡下でのメッシュを用いた根治的(TAPP)を行っています。

臍ヘルニアに対しては、当院独自の術式を導入し、見た目(形)の仕上がりにまで配慮した手術を行っています。臍ヘルニアもまた1000件を超える実績があります。加えて、ヘルニア門の大きい臍ヘルニアの患者さんでは、メッシュを用いてヘルニアの修復を行っています。妊娠中に生じた臍ヘルニアに対しても産後に手術を行っています。臍ヘルニアは、保険適応の手術です。

手術件数と実績

年間手術件数(過去3年平均)	
小児 鼠径ヘルニア	約150件
小児 臍ヘルニア	約90件
成人 鼠径ヘルニア	約85件
成人 臍ヘルニア	約15件



小児については、遠方にお住まいの患者さんや基礎疾患を有する患者さんを除き、ほぼ100%が日帰り手術です。医療安全と快適性に配慮した体制のもと、術前から術後まで丁寧な対応を行っています。



治療を受ける患者さんのメリット

- ・小児から高齢者まで幅広い年齢層に対応
 - ・基礎疾患のある患者さんにも各科と連携して安全に手術
 - ・産婦人科との連携により妊婦さん・産後の方の対応も可能
- 鼠径ヘルニアでは
- ・腹腔鏡手術により創部が小さく、術後の痛みも少ない
 - ・手術中に反対側のヘルニアの有無も評価可能(対側チェック)



最後に

診断がついていなくても、気になる症状がありましたら、どなたでもお気軽にご相談ください。

お子さんの手術決定～手術まで

患者さん一人ひとりに合わせた丁寧な説明と対応を目指しています

●動画を活用したオリエンテーションの実施

手術の2週間前～前日までに、手術前の検査と麻酔の受診があります。その時に、看護師から書類を見ながら、手術の流れを説明しています。

初めての手術を少しでもイメージでき、不安が軽減できるよう、手術前から手術後のスケジュールを説明したり、手術室から麻酔を行うまでの流れを動画で視聴いただいています。

動画の二次元コードをお渡ししていますので、ご自宅で何度でも見ることができ、お子さんも保護者の方も不安軽減につながっているととても好評です。

！
当院ホームページからもご視聴いただけます

手術室ってどんなところ？



二次元コードより
ご覧ください▶



●手術室までのスタンプラリーを行っています！

手術当日は、お子さんと保護者の方は手術室の入口で一旦「さようなら」をしなければなりません。お気に入りのおもちゃを握っているお子さん、不安な表情を浮かべているお子さん、お父さんやお母さんとハイタッチを交わすお子さん・・・その姿はさまざまです。

そんなお子さん達に看護師は寄り添い、「次のスタンプを押しに行こう！」「好きなキャラクターはなに？」と声かけし、スタンプラリーを行いながら、手術室に向かいます。

手術室に入ったところで「スタンプラリーは達成！」です。お子さんにとっては、ひとりで挑む小さな冒険のような道のりですね。

私たち看護師は、手術に対する恐怖心が少しでも和らぐよう、そしてお子さんと保護者の皆さんが安心して手術に臨めるよう、心を込めてサポートします。

No. 38

救急科 科長

江濱 由松先生 (Yoshimatsu Ehama)



救急科について

当院における救急科の役割は大きく2つあります。

- ①救急搬送患者の診療:勤務時間内は、原則として救急搬送患者の初期診療は当科で担当いたします。診察の結果、呼吸・循環・意識状態が不安定な重症患者であれば状態を安定化させつつ高次医療機関へ搬送します。また、状態が安定している患者は症状や疾患に応じて各専門科へ紹介します。その際は、特に見逃すと命に関わる疾患を確実に否定する事が救急科の役割となります。
- ②救急文化の育成:新設部署である当科の最大の使命は当院における救急診療体制・重症患者診療体制の整備です。今後は、救急専従医増員、院内救急救命士雇用、緊急搬送車両(ドクターカー)導入なども画策しております。また、院内での心肺蘇生教育や災害対応教育などを通して急変や災害に強い病院作りも並行して行っており参ります。



プロフィール

■経歴:2009年 弘前大学医学部医学科 卒業

2009年～ 市立函館病院 初期臨床研修

2011年～ 弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター

2012年～ 市立函館病院 救命救急センター

2016年～ 埼玉県立小児医療センター 救急診療科・集中治療科

2020年～ 函館五稜郭病院 救急科

2025年～ 天使病院 救急科

■資格:日本専門医機構 救急科専門医

日本集中治療医学会 集中治療科専門医

日本蘇生学会 蘇生指導医

日本救急医学会 ICLSコースディレクター

日本救急医学会推薦 Infection Control Doctor

日本小児救急医学会 Special Interest Member

日本DMAT隊員(統括)

■ごあいさつ

はじめまして、救急科 科長の江濱(エハマ)と申します。珍しい苗字で覚えにくいとは思いますが、以後お見知りおきください。さて、当院では本年4月に救急科が新設され、現在、診療体制の整備を行っております。医師は私1人でのスタートであり、皆様のお役に立てるようになるまでは、まだ時間を要するかもしれませんが、地域の救急医療を支える1ピースとなるよう尽力していく所存ですので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

■専門分野について

【専門分野:救急診療全般、病院前救護、小児救急・集中治療、災害医療】

身も心も根幹は救急医です。救急外来での救急診療、ドクターヘリやドクターカーで現地に赴く病院前救護、重症患者の集中治療など、主に成人の診療を通して救急専門医となりました。しかしながら、息子の誕生を機に、小さい命を救える救急医になりたいとの思いが芽生え、重症小児診療に特化した小児集中治療室(PICU)でも修行をして参りました。まだまだ未熟者ではありますが、救急医として少しでも子供たちの為になれるよう今後も尽力していきたいと思っております。

なお、救急医の使命として、東日本大震災では被災者や原発作業員の診療、能登半島地震では災害派遣医療チーム(DMAT)として現地で活動した経験はありますが、災害医療は専門ではなく、むしろ不得手です。私が医師である間はもうこのような災害が起きないことを強く願っております。

■趣味・特技

特技は剣道で幼少期から続いています。コロナ禍中に稽古量が激減し、現在はまだ五段で足踏みしていますが、今年度中に六段へ昇段できるよう精進しようと思います。趣味については、昼は嗜む程度にロードバイクやテニス、夜は浸る程度にお酒と映画です。

■江濱先生ってこんな人♪

今年度、救急科に着任された江濱先生は、救急診療体制の構築をはじめ、地域医療の充実にも力を注がれています。高度救命センターでの勤務経験があり、現在もドクターヘリに乗務されるなど、まさに現場の最前線で活躍される救急のプロフェッショナルです。一方で、186cmの長身という立派な体格にもかかわらず、誰にでも分け隔てなく接する温かい人柄で、優しい笑顔が印象的な先生です。着任間もないながらも、すでに当院には欠かせない頼れる存在となっております。





第17回

天使病院臨床研修プログラムについて

～2025年度新研修医紹介～

今年度は天使病院臨床研修が始まって以来の最大数7名の研修医が天使病院に来てくれました！研修開始してから3ヶ月、それぞれの天使病院臨床研修プログラムについて感じたことを率直にお話していただきました。

市川 芽生 (いちかわ めい)



入職してまるまる2ヶ月が経ちましたが、非常に充実した研修医生活を送っています。天使病院では指導医が大変丁寧に面倒をみてくれます。いわゆる医学的指導はもちろんのこと、カルテ1つ1つをしっかりと読んでくれたり、救急外来でコンサルトしたときなど、いたるところでフィードバックをいただけます。また、「病院全体で研修医を育てる」という理念の通り、回っている科の指導医だけでなく、他科の先生、看護師、コメディカルスタッフなど、院内の沢山の方々が研修医を気にかけてくれています。本当に素敵で恵まれた温かい環境だと感じています。

中川 晃祐 (なかがわ こうすけ)



生まれも育ちも札幌です。趣味の水泳をはじめ、様々なスポーツに関心があります。研修がスタートし3ヶ月目を迎えましたが、スタッフの皆さまの温かい応援の中で充実した研修生活を送れています。手技に興味があり将来的には外科系への進路を考えていますが、まずは幅広く学び、診療の基礎をしっかりと身につけたいと考えています。

星野 健太 (ほしの けんた)



自身が経験した手技や症例を定期的に振り返る機会があり、多くのフィードバックをいただける環境が整っています。また、コメディカルの方々からも手技や知識を学ぶことができ、「病院全体で研修医を育てる」という雰囲気を常に感じており、この研修プログラムを選ん

でよかったと実感しています。同期にも恵まれ、互いに経験した症例などを共有しながら、日々切磋琢磨しています。さらに、今年度からは救急科が新設され研修環境もより充実したものになっています。ぜひ一度、見学にお越しください。

和田 伊織 (わだ いおり)

理想の研修ができる病院だと感じ、天使病院で医師人生をスタートすることを決めました。実際に入職してから、職員の皆さんの教育に対する情熱や様々なレクチャーなどの全てが私の目指す、「患者さんのための医療」に繋がる環境だと感じながら働いています。最高の研修環境で皆さんと一緒に高め合いませんか。

佐々木 あずる (ささき あずる)



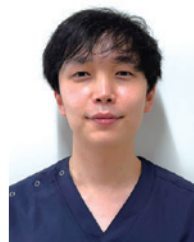
天使病院では科を跨いで様々な症例を経験することができます。「病院全体で研修医を育てる」という天使病院の理念の下で教育熱心な上級医や他職種の方々にフィードバックをいただきながら日々成長していることを実感しております。上級医の先生方との距離が近く、それぞれの成長度合いに合わせて先生方の指導を受けることができるのも魅力です。ぜひ一度見学に来て魅力を感じてください！

鉢呂 広介 (はちろ こうすけ)



天使病院の研修の強みはなんといっても「一人一人に合った研修」なのかなと思います。一人一人の性格や思いに合わせて、その研修医が一番研修できる環境を整えてくれるのが当院の指導医です。手技はもちろん、診療上のアセスメント、学会発表などのアカデミックな側面まで、その人が求める全てが得られる環境がここにあります。「研修医A」ではなく「研修医の〇〇先生」として研修できる当院で、是非医師生活の一步目を僕たちと歩みませんか？

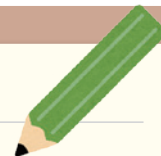
宮澤 諒 (みやざわ りょう)



「病院全体で研修医を育てる」という理念に惹かれて入職いたしました。現在、患者様、職員の皆様のご協力のもと、楽しく、充実した研修生活を送っています。



他、2年目の先輩研修医を含めた全12名で、天使病院の研修に励んでいます。まだまだ勉強不足ではありますが、一日も早く独り立ちできるように、精一杯努力しています。患者さん初め、地域の皆さんには温かい目で見守っていただければと思います。



第22回「わたしの農業体験？」

産婦人科
計良 光昭

たまにへび(ハブ)出るから気を付けてね～。

マジ～？

かくして私の沖縄開拓史は始まった。

2022年11月13日知り合いから親戚が農家で余ってる畑あるから使ってもいいよ～と言われ見学へ。ジャングルじゃん！元ハウスだった畑は耕作放棄地となり、そう

なると沖縄ではあつという間に写真のようなジャングルになるのであった。元ハウスジャングルは幅4m奥行きがなんと50m！最初はちょっと手前のところだけきれいにして畑をやろうと思いスコップ、スキ、カマ、クワ、大バサミ、長靴など買

い揃え11月15日作業開始。ところが、蚊は出るわハチは出るわでもう大変。沖縄はまだアチいのでTシャツ短パンで作業したいのだけど長ソデ長ズボンに麦わら帽子、日本手ぬぐいでほっかむり、軍手をはいて虫よけスプレー、蚊取り線香と完全防御でなきゃならない！よく見ると周りの農家の方々は誰も半袖なんていない。4分の1程度開拓したところで火が付いた。よし！全て手作業で最後まで開拓するぞ～！

今回作業開始が11月だからまだなんとなかったけどこれが夏だったら無理でしたね～。11月でもこの格好での作業は1日2～3時間が限界でなんとか一番奥にたどり着けたのは、本業の合間にしていることもあるので、2か月後の2023年1月12日、出勤回数は16回であった。ジャングルを開拓しながら、耕していったんだけど、土がカッチカチに硬い！調べてみたところ、ここはジャーガルという粘土質で硬い土だそう。色々な木や草の根もあるのである程度掘り返したところにホームセンターで買ってきた土を投入してなんとか畑らしくなってきた。

沖縄が北海道と大きく異なるところは？はい、雪が降らないことです。となると1年中色々な作物が収穫できます。で、秋から春にかけては北海道の夏に取れる作物が、夏には北海道では栽培が難しい作物が採れることになります。開拓終了時期より手前から種まき開始、1月だから冬野菜なので、ダイコン、ホウレンソウ、シュンギクなど播種、トマト、島トウガラシなどの苗を定植した。農作業開始してからネットで色々調べてみると、コンパニオンプラントという用語が出てきた。どうやら植物というものは相性があるといいものと悪いものがあるようで、例えばトマトにはバジリコやネギなどが相性はいいようだ。他にも色々あって面白いので兎に角手あたり次第に色々な種やら苗を植えていった。それとやっぱ沖縄はトロピカルフルーツ！マンゴー、パッションフルーツ、バナナ、シークワーサーと次々と苗木を購入して植えていきましたよ。でも～、なかなか育たない！何とか収穫できたのは、トマト、エダマメ、オクラ、島トウガラシ、島ラッキョウ、スナップエンドウ、辛味ダイコン、パセリ、フーチバー(ヨモギのことです)くらい。簡単だよと言われたゴーヤーも駄目でした。

2024年7月畑を残し札幌へ帰ってきました。12月にマラソンがてら畑がどうなったか見に行ったらもうジャングルに逆戻り、折角植えたバナナやシークワーサー達は悲しいことにジャングルに埋もれて見えなくなっていたよ～。残念！

で、2025年、今年は札幌ではさー(畑する人のこと)になって今度こそゴーヤーを作るぞ～！

畑仕事は地味だけど野菜たちが育つのを見ると癒されるさー。



夏野菜とスパイスで

夏バテ予防



彩りスタミナ丼

栄養科 藤原

材料(2人分)

- ・牛豚合いびき肉 …… 150g
- ・ズッキーニ …… 1/2本
- ・赤パプリカ …… 1/2個
- ・黄パプリカ …… 1/2個
- ・ナス …… 1/2本
- ・玉葱 …… 1/2個
- ・卵 …… 1個(目玉焼き用)

☆調味料

- ・カレー粉 …… 大さじ1と小さじ1
- ・焼肉のたれ …… 大さじ1.5
- ・塩コショウ …… 少々

作り方

- ①夏野菜をすべて粗みじん切りにする。
- ②フライパンを中火で熱し、熱くなったらサラダ油を入れる。
サラダ油をなじませた後すぐに、卵をそっと入れる。
- ③焼きあがったら取り出す。
- ④同じフライパンに再度サラダ油を入れ、玉葱をよく炒める。
しんなりしてきたら、ひき肉を加えてほぐしながら炒める。
- ⑤残りの野菜をすべて入れ炒める。
- ⑥全体に火が通ったら調味料をすべて入れ
味を馴染ませる。
- ⑦ご飯を器に盛り、炒めた具材、目玉焼きをのせて完成。

POINT

ズッキーニ、赤・黄パプリカ、ナス、玉葱などの夏野菜をたっぷり使ったスタミナ丼。カレー粉で炒めたひき肉に、焼肉のたれを加えるだけで簡単に味が決まります！パプリカはビタミンCが豊富で、紫外線対策にも◎。ズッキーニやナスは水分が多く、体の熱を冷ます作用もあり、夏バテ予防にぴったり。食欲が落ちやすい夏でも、スパイシーな香りでごはんがすすみます！手軽に作れて栄養満点、夏を乗り切る一皿です。

次回もお楽しみに！



産科外来より ～皆さまの声をカタチにしました～

産婦人科外来では、患者さまからいただいたアンケートのご意見をもとに、より快適にお過ごしいただけるよういくつかの取り組みを始めました。

◆「待ち時間をもっと自由に」

受付票の二次元コードから登録していただくと、順番が近づいた際にメールでお知らせが届くシステムがあります。詳細は産婦人科外来にお問い合わせください。

◆小さなお子さま連れの妊婦さんへ

お子さまと一緒に安心してご来院いただけます。皆さまの声が、私たちの励みであり、改善の原動力です。今後も安心して通っていただける病院づくりを進めてまいります。



第2回 専門・認定看護師による 看護健康相談会 開催のお知らせ

日時：2025年10月15日(水) 9:30～14:30

場所：旧透析室(予定)

天使病院に来院された患者さんとそのご家族を対象に相談会を行います。日頃気になっている事、ご心配な事など看護師に相談してみませんか？開催時期が近くなりましたら、院内ポスターやホームページでお知らせいたします。

天使病院
専門・認定看護師委員会



糖尿病 予防教室について

オンライン(オンデマンド)方式の糖尿病予防教室を開催しています。視聴期間は掲載から3ヶ月間です。詳しくは天使病院のホームページをご覧ください。



▲ ホームページ

スケジュール(2025年8月～10月)

月	タイトル	担当者
8月	3大合併症～糖尿病性腎症～	医師 崎山
	腎症指導	看護師 伊藤
9月	低血糖	医師 高階
	糖尿病の薬物療法	薬剤師
10月	動脈硬化の話	医師 辻
	食べても良いの？惣菜編	管理栄養士

11月以降の予定については、改めてご案内させていただきます。



表紙の写真紹介

今季の表紙写真 ～西6病棟 織田さん～

夏に楽しめる花はたくさんありますが、爽やかな青い紫陽花を載せることにしました。優しく輝く水中の花びらで、少しでも涼しさを感じていただけたらと思います。写真は天使病院のすぐ近く、諏訪神社で撮りました。諏訪神社は縁結びや子宝祈願を中心に多くのご利益をもたらす神社として知られていますが、年間を通して楽しめる花手水や毎月変わる御朱印、種類豊富なお守りで参拝者を和ませ癒してくれる工夫がたくさんあり、いつも賑わっている神社です。いつ行っても楽しめるおすすめの場所です！暑い日が続きますが、夏バテに気をつけて元気にお過ごしください。



広報誌 「天使びょういん」第77号
発行日 令和7年7月15日
発行人 院長 山本浩史
編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

今年は、西6病棟の織田さんが、表紙の写真を担当してくださっています。

暑い夏が始まりましたので、爽やかな紫陽花の写真を見ながら涼んでいただければと思います。熱中症対策もお忘れなく、夏を乗り切りましょう。

